

観月台文化センター開館25周年

特集

ずっと変わらない

大切な場所

平成6年に開館した国見町観月台文化センターの使命は、開館当時から変わらず「訪れる人・利用する人が幸せを感じられる施設、幸せを共有できる文化と福祉の拠点」となることです。開館25周年を迎えた観月台文化センターについてお伝えします。



1



2



3



4



5

幸せを共感できる
文化・福祉拠点が誕生

老朽化した町老人福祉センターの改築事業として、当時の国が推進したふるさと創生事業を活用して建設した施設が、文化と福祉の機能を併せ持つ国見町観月台文化センターでした。

落成式は、町制施行40周年記念式典と併せ、平成6年4月25日に行われました。500人収容の多目的ホール、会議室、図書室、デイサービスルーム、浴室などさまざまな機能を持ち、開館以来、町のみならず、県北・仙南地域の文化と福祉の拠点となりました。

赤ちゃんが初めて本に触れる場、子どもたちが集い、共に学ぶ場、同じ趣味を持つ仲間が同じ時を過ごす場、静かに本を開く場、演じる場、鑑賞する場…。

観月台文化センターはこれまで、これからも人が集い、幸せを体感できる空間を提供し、みんなが笑顔になる場所としてあります。

東日本大震災復興に向けて前へ

平成23年3月11日、町は震度6強の揺れを観測し、役場庁舎が大きな被害を受けました。観月台文化センターに災害対策本部が設置されると同時に、町の機能も移転され、新庁舎ができるまでの4年間、仮庁舎としての役割を果たしました。仮庁舎の期間、ホールを使用することはできませんでしたが、観月台文化センターとしての役割は失いませんでした。その他の会議室を活用し、生涯学習はもちろん、復興に向けたふるさと祭や明日へ復興・きずなイルミネーションなど元気活力事業で町民の心に光を灯しました。

1平成27年12月にホールのリニューアルを記念して行われた第3回「復興・絆〜和太鼓フェスティバル」で演奏する錦町太鼓保存会の子どもたち 2仮庁舎時のホール（平成23年6月撮影） 3修繕直後のホール（平成27年12月撮影）

幸せを感じられる空間 新たな挑戦

平成27年5月に新庁舎が完成し、町機能が移されました。その後、観月台文化センターは修繕工事が行われ、この年の12月にリニューアルオープンしました。そして、幸せを感じられる空間を取り戻すため、新たな挑戦を始めました。「美術品をより身近に」と石原コレクションの常設展示や学習相談ができる「観月台フリー学習室」の開設など、居心地の良い「国見のリビング」を目指しました。また、コンサートと併せ地元生産者との対談、町の農産物を販売するマルシェを併設した「観月台クラシック・フェスティバル」や演奏家がホールを飛び出して学校や老人ホームで演奏する「アウトリーチ」など、新しいコンサートのカタチを作り出しました。さらに、親子で町の伝統文化を体験する国見町伝統文化親子体験フェスタなど、新たな文化の創造に着手しました。



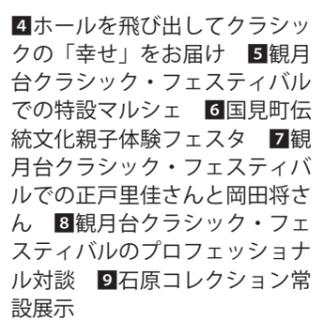
4



5



6



7



8



9